

「旭川市立小・中学校適正配置計画(素案)」に寄せられた御意見と旭川市教育委員会の考え方

○ 意見提出手続の期間: 令和6年10月29日(火)～令和6年12月13日(金)

○ 意見提出者: 19人, 0団体

※御意見は原文のとおりとしていますが, 誤字は修正を行っております。また, 個人情報に関する表現は削除しております。

受付 番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
1	教育は国の財産です。常に前進させるべきです。 高齢者増と少子化による子供減少の現実も認識すべきです。 永山東小も計画の2期から検討されていますが、地域環境の変化があると思います。 旭川大学が私立から市立になり、生徒数も増加しました。 旭川大学から永山農業高校まで教育地域に検討すべきです。 現在の永山小そして永山中の学校敷地十分でしょうか。 永山小は狭すぎます。永山中は野球をすればサッカーは出来ないなど。 これから旭川市全体で人口減少と会話がありますが、地域の特性を生かし地域の発展に進むべきです。旭川市が上川百万石の中心と表現されるべきです。 すべて教育です。 教育校舎があり、健康づくりの施設があり、食への実践施設など強化を図るべきです。 永山地区における今後の人口動向も厳しいと思います。 永山駅前現状、そして町内会の解散もあります。今以上に空洞化になるのでしょうか。 地域環境が良くなれば、若い世代の流入が自然発生するでしょう。	永山東小学校は、本計画策定当時と比べて児童数が増加していますが、将来推計でも児童数が100人を超える見込みはなく通常学級児童が100人以下の小規模校であるため、統廃合の対象校としています。 統廃合につきましては、保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討、協議を行ってまいります。
2	適正配置計画素案では、近年、児童数が減少して来ている過小規模校が対象になっていますが、現在の通学区域は、極端な話をすれば、開校当時から殆ど見直されていないのが実態で、例えば、永山東小に通学した方が近いにも関わらず、校区割で、永山小に通学している事例も見受けられます。永山東小は、永山西小と共に、明治24年開校という旭川市内で1番歴史のある学校と理解しており、その歴史の重みを考えると、学校の周りが過疎化となっている状況にはないことから、通学区域見直しなどにより廃校を回避できないものかと考える次第です。	通学区域については、歴史的に形成された生活圏も踏まえ、児童生徒の安全確保や距離に配慮して定めており、地域コミュニティとの整合性を考慮し、小学校卒業後、全児童が同じ中学校に進学できるよう見直しを進めております。 通学区域を分けることは、これまで進めている小中連携や、他校の小規模化を招来することにつながることへの影響を考える必要があり、全市的な人口減少の中、特定の校区に児童生徒を誘導することは難しいと考えております。
3	新町小と青雲小の距離が近過ぎる点と日章小の通学区域の境界が狭過ぎる事です。知新小の区域が広過ぎます。倍以上ありますよね。 地図上で見ても青雲小、日章小、知新小の配置がバランスよく、適正配置だと思えます。日章小学校の存続を強く希望します。私も子供達も日章小学校の卒業生です。	通学区域については、歴史的に形成された生活圏も踏まえ、児童生徒の安全確保や距離に配慮して定めており、地域コミュニティとの整合性を考慮し、小学校卒業後、全児童が同じ中学校に進学できるよう見直しを進めております。 通学区域を分けることは、これまで進めている小中連携や、他校の小規模化を招来することにつながることへの影響を考える必要があり、全市的な人口減少の中、特定の校区に児童生徒を誘導することは難しいと考えております。

受付 番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
4	3人の子供が大町小卒業した母です。 統廃合を見直して頂きたいと思っています。少子化が進むため維持していくのが困難と言う理由は理解できるのですが、今多様性が進む中、不登校の子供達も増え、今までと同じ学校の在り方でよいのかと問われているのだと感じています。子供達ははっきりとNOと伝えてきている、そして何よりそこに関わる保護者(主に母親)がどれだけ悩み孤立し不安を抱えている方が多いか。小学生の子が家に居るとなると、離職しなければならなかったり、食費やフリースクールの選択により経済面でも追い込まれてしまう場合も多いので、と感じています。 少子化だから学校を減らしていく、その観点を少し変え、特認校ともまた違う少人数の大家族の様な小学校があってもよいのではないかと思います。大町小は交通の便もよく、旭川のシンボル旭橋や石狩川が隣にあり窓からは大雪山が見え、町中であるのに自然が沢山感じられます。高学年になればバスなどで子だけでも通える場所です。 質問したいのですが『今旭川の小学生の不登校の子供は何人なのですか?』 その子達の少しでも、この小さな学校なら安心して通える、と思う子供はいないでしょうか?大町小は学年を越え親達の繋がりも強いです。子供の悩みなど、聞きあい理解し合っています。もし、不登校だった子の保護者の方がきても、きっと安心して交流できるのではないかと感じています。(聴きあう場を今までも設けてきましたし、これからする事ができます) 子供も親も、安心して伸び伸びと自分を表現し生き生きと通える公立の学校を旭川に作る事は難しいのでしょうか。 ただ、少子化という理由で、保護者、OBからこんなにも愛される大町小をなくしてしまって本当にいいのでしょうか。 旭川市のご意見をお聞かせ下さい。	大町小学校は過小規模校であることから統廃合の対象校としており、統廃合については保護者や地域の方々の御意見をお聞きし、協議してまいります。 本市の不登校児童生徒数は、令和5年度の調査で585人となっており、教育委員会では、教育支援センター(ゆつくらす)の運営のほか、学校向け指導資料の作成や、教員研修会を実施するなど、不登校の未然防止や児童生徒の自立支援等の充実に向けた取組を進めております。 また、教育委員会等に個別の相談があった場合には、児童生徒本人と保護者の意向を踏まえながら、個に応じた具体的な支援の推進に努めております。 少人数の学校についての御意見は、今後の参考とさせていただきます。
5	小中学校の児童生徒の減少による小中学校の統廃合は仕方がない事だと考えます。 その上で、統廃合に当たって新しい学区の区割りを決める時には、市民委員会や社会福祉協議会、地域包括支援センター、その他の多々ある行政の区割りに配慮し、将来を見据えて整理し、その上で決めるべきと考えます。	適正配置の推進に当たっては、保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討、協議を行ってまいります。

受付 番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
6	統廃合対象とされる大町小学校に子どもが通っています。適正配置計画が策定されて以降、統廃合されてしまう小学校というイメージが先行し、学区内に居住する未就学児が学区外の学校へ入学するなど、入学児童数が減少しており、小規模化が加速し、在学中の児童が煽りを受けています。説明会では、計画期間中に必ず統廃合するという計画ではなく、「統廃合に向けての意見集約や説明、準備を始めるという内容だ」との説明を受けました。近年中に無くなる学校であるというイメージを持たせるような本計画の在り方、見せ方は、小規模校へ通っている子どもたちが複式学級となってしまったり、無くなる学校ならばと越境し近くに学校があるのに遠距離の学校に入学して登下校に負担がかかるなど、今の子どもたちに悪影響が出ているものと考えます。すぐに統廃合を実施する計画ではない旨を前面に出すような見せ方にすべきではないでしょうか。 また、適正と掲げられていますが、その基準としている、学級人数、登校距離、職員配置数等が、現代に合っておらず、適正ではないと考えます。 登校距離基準は小学校4キロ、中学校6キロとありましたが、小学校低学年の遠足でも2キロ程度しか歩かないのに、毎日片道4キロ、A4サイズの教科書やipadの持ち帰り等、昔よりもかなり重くなったランドセルを背負い小学校低学年児童が歩ける距離ではありませんし、体の育ちに悪影響が出ることも考えられます。猛暑、暴風雪、不審者問題等も通学距離が長くなればなるほど、大きな危険が生じる事になります。保護者の送迎ありきと考えられているのでしょうか？ 少子化が進んでいるからこそ、少ない子どもたちに負担がかからないよう、最適な環境を用意するのが行政の役目ではありませんか？この計画で子どもたちにとって最適な環境になるとは到底思えません。 予算が無い、人材がいらない等と聞こえてきますが、これらは大人の都合であり、子どもたちの教育を受ける権利には関係のない事です。 大町小学校は小規模校だからこそ一人一人の子どもと教員がしっかりと向き合う事が出来ており子どもたちの心も安定していると思います。互いに多様性を認め合える子どもたちが育ち堂々と卒業していく姿を見てきました。一クラスの人数は、現状の基準の半分程度で良いと思います。一クラスの人数を減らすことで生まれる教員の余裕は、子どもの満足にもつながり、個々の子どもたちの豊かな成長につながっていくと思います。目が行き届く人数にすることで、問題も起きにくくなると思います。統廃合により一クラス40人を維持しようとするのは、時代に逆行していると考えます。教員の働き方改革を進めているのであれば、まず受け持ち人数を減らし、負担を軽減する事を考えられてはどうでしょうか。 小規模だから統廃合という安直なものではなく、近隣の学校との校区を調整し、児童数のバランスをとるなども統廃合の前段階として検討すべきであり、調整区域に該当する場所に住む子どもには、どちらの学校に行くかを選ぶことが出来るようにするなど、大勢がいる学校が良いと思う子ども、少ない人数の学校に行きたいと思う子ども、どちらも快適に学校に通う事が出来るよう整備すべきです。 また、今回対象校とされている中心部近くの学校は、市内各地からのアクセスが良い場所にある学校が多いので、特認校とするなどして、市内各地から現在の学校で不登校となってしまった子どもを受け入れる等、市内全域で取りこぼされる子どもが出ないような政策にして頂きたいと思います。現状の特認校は郊外過ぎて転校させる事も出来ない状況も生じていると思います。 また、共働きが主流となっている現代においては、留守家庭児童会も、規模に関わらず市内の全ての小学校に設置するべきだと思います。学校が無くなるという事は、この先、その地域に子育て世帯が住まなくなり地域全体が高齢化、過疎化していくことになります。外国籍の流入が増えて治安が悪化する事にもつながるかもしれません。市の行政がその地区を見捨てるのだという印象を受けました。 大町、日章、新町、青雲等、旭川中心部近い場所の学校が対象とされていますが、学校が無くなるという事はその地区で子育てする家庭が無くなるという事につながります。旭川市民が、市内どこでも安心して子育て出来るような政策にして頂きたいと切に願います。 全体的な子どもの数だけにとらわれることなく、今を生きている子どもたちを大切にする政策を望みます。	適正配置の推進に当たっては、計画期間に保護者や地域と協議を進めることとしており、適正配置を進めるに当たっての留意点や、ブロック別計画の各中学校の通学区域の中でその旨記載しています。 教員配置基準については、道で定めた基準であり、児童生徒数が少なくなると教職員の配置数が少なくなり、教員や養護教諭や事務職員が配置されなくなる場合があるなど学校運営への支障が考えられるため、学校規模を区分し、望ましい学校規模を区分しています。 また、通学距離については国の標準的な通学距離を基本としていますが、この距離ありきではなく、地域の状況なども考慮し通学支援について協議してまいります。 本市では、自然環境に恵まれた小規模校で、児童生徒の豊かな人間性を培い、健やかな成長を育むため、特認校制度を設けており、富沢小学校と旭川第5小学校、桜岡中学校の3校を指定しています。 特認校、児童クラブについての御意見は、関係課と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。
7	学校統廃合により、高齢化等地域の衰退、特に低学年の通学距離の延長、等の問題に対策をされるのか。児童が減っているのであれば、「増やす」方法は検討したのか。メリット・デメリット以前に、物事を無駄に掻き回しているように見える。担当者が地域や児童を向いて仕事をしているとは思えない。	統廃合により通学距離が遠くなる場合は、保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討してまいります。 児童生徒数の減少は全市的な課題であり、人口減少対策の御意見につきましては、関係課と共有させていただきます。

受付 番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
8	大町小6年と1年生の母です。 大町小は年々人数が減って寂しいですが、適正配置計画が発表されたことにより入学数がより減っていると思います。毎年の入学数が気になり不安が大きいです。 低学年に遠い学校に通わす危険、スクールタクシーなども約束出来ない状態で、統廃合を迫られる私達の気持ちは置き去りです。 少子化が問題になっている今、今だからこそただ学校を減らすのではなく、少ない子供に手厚く安全な教育が必要なのではないでしょうか。 説明会で特認校も増やさないと聞きましたが、交通の便が良い特認校もこれから必要で、大町小は候補地に値すると思います。 目の行き届いた、より良い教育を望みます！	大町小学校は過小規模校であることから統廃合の対象校としており、適正配置を進めるに当たっては、通学路についても保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討してまいります。 本市では、自然環境に恵まれた小規模校で、児童生徒の豊かな人間性を培い、健やかな成長を育むため、特認校制度を設けており、富沢小学校と旭川第5小学校、桜岡中学校の3校を指定しています。特認校についての御意見は、今後の施策の参考とさせていただきます。
9	大町小学校に通わせています。 少子化の影響なのは承知していますが、今後、向陵小学校に統合された場合、スクールバスやスクールタクシーなどもあるということですが、現段階で物価高騰や燃料費も高騰してる中で、保護者負担は全くないのですか？iPadを持ち帰る中、徒歩での登校大変だと思います。 少人数ながらでの良さもあります。ですが、統合された事で、人数が増え馴染めない子供たちも出てくる、いじめなどの対策はどう考えていますか？ 大町小学校の子供たちは、学年関係なしに仲良くしています。統合されれば、他学年との交流も減るだろうし、他学年のとの交流も子供の成長の一貫だと思っています。 学習面に関しては、複式になった事で、不安はありましたが、参観日を見て、きちんと教えてくれるし、わからないところあれば、きちんと先生が教えてくれる様子を見て、統合されたら1学級30人程度の子どもを先生1人で見て、先生が生徒一人一人に向き合えるか？その点、今現在、先生と子供とのふれあい週間 という、時間も設けてくれて、先生が子供一人一人と話をしてくれています。子供たちも先生に自分の不安な気持ちを話したりしてます。それで先生も解決策を考えながら向き合ってくれていてそれも少人数ならではだと思ってます。 今後、少子化はますます進むかと思いますが、少人数の学校も良さはたくさんあります。 現状維持でこのまま学校の存続、そして1度授業の様子など子供たちの様子を見てご検討して頂きたいです。	大町小学校は過小規模校であることから統廃合の対象校としており、適正配置を進めるに当たっては、通学路についても保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討してまいります。 少人数の学校では児童一人一人に目が行き届きやすい、きめ細かな指導がしやすいという反面、集団教育活動に制約が生じる場合もありますので、必要に応じて教育の実際も確認しながら、より良い教育環境について保護者の皆様と意見交換し、適正配置について協議してまいります。
10	私の父は、生前、旭川市立新町小に教諭として勤務していました。その新町小が来年度以降、統廃合の対象校となる事を知り、この度意見を申し上げたく思います。 新町小に異動する前は、父はどこもへき地の学校ばかりであったため、初めての「街の学校」でした。そのため、父はよく児童達の通学時の安全を一番に懸念していたようでした。（当該学校が一級国道に隣接しているため） 現在、新町小も児童数100人未満の小規模校となったため、近隣の小学校への統合が検討されているのは、止むを得ない措置だと思われますが、統合につきましては、児童の通学時の安全を第一に考慮いただき、財政的には困難かと思われますが、幹線国道には歩道橋の新設などの可能な限りの対策をとっていただければ、大変有難く思います。 宜しく願いいたします。	いただいた御意見は参考とさせていただきます、適正配置を進めるに当たっては、通学路についても保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討してまいります。
11	適正配置案を読ませていただきました。 龐大な計画と資料の作成、ご苦労様です。当町内は小学生数が少ない事もあり、この件について関心が低く、正直申しまして当時と町内事情は変わっておりません。しかしながら、最終意見(結論)として永山東小は地域に必要な学校であり、前回同様永山小学校に統合せず、現状維持でお願いしたいと考えます。ここ何年か、家を建てて若い人が町内に入ってくるようになりました。永山東小学校の評議員の方が、「会長、子供増えた」と教えてくれましたが、100名の壁は簡単ではないと思います。 今年度、私は招待されて運動会・学芸会・授業参観等を見学させていただきました。上川開拓(永山屯田)時代から地域に根付いた小学校であり、小規模ならではの活動にも様々な思い入れのあるご家族もあるようで、孫・ひ孫の振る舞いに特別な感情を抱く方もおられたようでした。残すとなれば、施設の維持管理、教員の配置計画、複式学級…等々様々な問題が考えられる(市の資料から)ようですが、ご審議方よろしくお願い致します。	永山東小学校は、本計画策定当時と比べて児童数が増加していますが、将来推計でも児童数が100人を超える見込みはなく通常学級児童が100人以下の小規模校であるため、統廃合の対象校としています。 統廃合につきましては、保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討、協議を行ってまいります。

受付 番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
12	娘が日章小学校に通っています。複式学級では他の学年のお友達とも密に接することができ、助け、助けられとても良い環境にあると思います。 日章小学校の学区が狭いのも人数が少ない要因の一つかとも考えています。うちは新町小学校の学区から変更届を提出し日章小学校を選びました。日章小学校の方が家からの距離が近く車通りも少ない道路を通る事ができる、そして新町小学校・日章小学校に実際に通っている方々の話を聞いて日章小学校にしよう決めました。近所には日章小学校に通うために引っ越されてきた方もいらっしゃいます。 娘に関しては幼稚園の頃は周りが大人びていて、その中にいる本人は暗い印象でしたが、小学校に入り特に1年生の終わりからは明るく素直になり毎日楽しそうです。日章小学校は娘にとって心地のいい場所なのだと感じています。	日章小学校の通学区域については、歴史的に形成された生活圏も踏まえ、児童生徒の安全確保や距離に配慮して定めており、地域コミュニティとの整合性を考慮し、小学校卒業後、全児童が同じ中学校に進学できるよう見直しを進めております。 通学区域を分けることは、これまで進めている小中連携や、他校の小規模化を招来することにつながることへの影響を考える必要があり、全市的な人口減少の中、特定の校区に児童生徒を誘導することは難しいと考えております。
13	先日の説明会ありがとうございました。 現在大町小に息子を通わせています。入学前に大町小が無くなると聞いて不安でしたが少数校という事で1人1人見過ごされないで行き届いた教育を受けられると思い入学しました。実際にそうです。不登校になった子が学校と協力して通えるようになりました。不登校が増えている今こそ少数校に重要性があると思います。ですから統廃合は反対します。少数化をこれ以上にしないために校区の広範囲が公共の施設という事をふまえて統廃合ではなく校区を広げて、生徒数のバランスがとれるようにしたらどうかと考えます。11/9の道新報道で周りの年配の方数人から「大町小無くなるんだね！」と言われました。現在大町小の子供達がそのような言葉を投げつけられて傷ついています。今後は勘違いを招くような中途半端な発表はやめて欲しいです。	大町小学校の通学区域については、歴史的に形成された生活圏も踏まえ、児童生徒の安全確保や距離に配慮して定めており、地域コミュニティとの整合性を考慮し、小学校卒業後、全児童が同じ中学校に進学できるよう見直しを進めております。 通学区域を分けることは、これまで進めている小中連携や、他校の小規模化を招来することにつながることへの影響を考える必要があり、全市的な人口減少の中、特定の校区に児童生徒を誘導することは難しいと考えております。
14	私の長女は第二期統廃合計画に挙がっている小学校に在籍しております。また次男も来年度より入学致します。学校の小規模化は弊害もありえますが、私の長女は小規模であるがゆえの良い面が多く感じます。 生徒一人一人に目が届いている状況が感じ取れますし、学校行事でもアットホームな雰囲気を感じ取れます。現状、心配なことはありません。 本計画（改訂案）の「ブロック別計画」には、統廃合及び通学区域の見直しの対象校を示しておりますが、統廃合や通学区域の見直しに当たっては、保護者と地域の合意を得ることを原則としていることから、双方が密になり協議していくことを望みます。 また統廃合がすべてではなく、行き残す道も同時に検討すべきと考えます。	適正配置の推進に当たっては、保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討、協議を行ってまいります。

受付番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
15	当方は統廃合の対象校の当事者です。個人として統合は避けてほしいという立場ではありますが、PTA組織の代表という立場でもあるため、今後できるだけ丁寧にフラットに意見形成を進めていくつもりです。 前提として、教職員の皆さんの置かれた状況や財政上の問題から、「適正配置」を推進していくという方針は基本的に理解できるものではありますが。その上で、今回の素案に対していくつかの疑問があるため、お伝えします(適正配置の説明会でも同様の表明をしております)。 まず、前期すなわち5年前の説明会で保護者や地域住民から示された質問・提案に対して何ら検討がなされていません。計画への反映がないのは当然のことながら、何のため5年という歳月が流れていったのだろうかという思いです。「統廃合のみ」だけではなく、小学校区域の見直しなどで、各校の児童規模のバランスを取るという選択肢も検討いただきたく思います。技術的に非常に困難なことは承知していますが、5年前に地域・保護者から生産的な意見が出ている以上、何かしらのリアクションをいただけないと、無力感にとらわれてしまいます。 次に、インクルーシブ教育や学びの個別化(オーダーメイド)などニーズが多様化・複雑化する環境の変化と、今回の適正配置計画がほぼリンクしていないことも分かりました。「検討する部署が違うので」との答弁を今般の説明会でいただきましたが、それでは計画を見直す意味はあまりないのではないのでしょうか。適正配置の基準や進め方は国から示されるものであるとは承知しておりますが、昨今の教育環境の変化を踏まえないと、「望ましい学校規模」とは何であるか、議論もできないのではないのでしょうか。これだけ世の中が変わっているのに、基準や価値観がアップデートされていないため、不安に感じてしまいます。ご案内の通り、「望ましい学校規模」というのは、各家庭や各児童によって多様であり、だからこそ多様な受け皿が求められているのではないのでしょうか。 最後に、児童数のカウントが通常学級の児童数に準拠しているのは理解に苦むものです。教職員の配置にも関わるため所与の基準があるのでしょうが(貴職におかれては不可抗力かと思いますが)、保護者らの気分を害したり、誤解を招いたりする恐れがあると思います。5年前に比べて「適正な学校規模」という文言が「望ましい学校規模」に変わったように、表現を見直した方がよいのではないのでしょうか。以上	通学区域については、歴史的に形成された生活圏も踏まえ、児童生徒の安全確保や距離に配慮して定めています。 児童生徒数の減少は全市的な課題であり、永山東小学校の通学区域を見直すことは、他校の小規模化を招来することにつながることへの影響も考える必要があることから、本計画での永山東小学校の通学区域の見直しは難しいものと考えております。 児童生徒数が少なくなると教職員の配置数が少なくなり、教員や養護教諭や事務職員が配置されなくなる場合があるなど学校運営への支障が考えられるため、通常学級の学級数により学校規模を区分しています。特別支援学級については、通常学級とは別に、児童生徒数に応じた教員が配置されておりますが、教員数の把握が難しいことから、本計画では通常の学級数で学校規模を区分しているところです。御指摘を踏まえ、表現を「児童生徒数」「学級数」に修正し、ブロック別計画表紙に「児童生徒数、学級数は通常の学級について記載しています」と説明を記載します。
16	少子化が進み、統廃合を検討していくことは時代の流れを鑑みると必要なことではあると思う。しかし、今現在、街の中心部から近い日章小学校や大町小学校で少子化が進み、統廃合の候補に入っていることで、入学前に校区外に転居する人もおり、これでは中心部のドーナツ化現象を助長し、旭川の街中がどんどん腐れていくことにもつながると思う。旭川を活性化しようと、買い物公園を盛り上げたり、イベントをしたりしても、人が街の中心に住んでいなければ、活性化には結びつかない。統廃合を検討していくことは大切かもしれないが、せっかく街に近く、バスなどの利便性も良い好立地な場所に小学校があるのだから、もっと有効に活用できないかを考えていくことは旭川の将来を見据えた上でもとても重要だと考える。 特に今は不登校児であったり、保健室登校、様々な理由で学校に行くことができない子供もいる。富沢に特認校があるが、あんな遠い場所にあると、毎日行き帰りと送迎が必要な所には通いたくても通えない人だっていると思う。その点、街に近い日章小学校や大町小学校は親の送迎がしやすいだけでなく、バスの利便性も良い。街に近い場所で、住居の校区内の学校へ通えない子供達が選択して通うことができるようにし、ロールモデルとして試してみるのもいいのではないだろうか。 生徒の数が少ないことで、教師の配置も少なくなること、運動会などでクラス対抗などの競技ができないデメリットはあるが、少人数だからこそそのメリットも多い。学校内の生徒全員の顔と名前がわかるだけでなく、保護者もわかること、きめ細やかな指導を受けられること、子供達が自分達で考えて実行する能力がつくこと、受け身ではなく、率先して行動するようになること、学年を超えて密に関係することで上級生は下級生を助け、下級生は上級生をお手本人にしやすいこと、子供がのびのび育つこと、人前でも大きな声で発表をできるようになること…。人と人との関係が希薄になってきている現代だからこそ、少人数の生活の中で生まれる密な関係も、子供の将来のためには大切だと感じている。これらの点を踏まえても、少人数のメリットはとても大きく、だからこそ上記のような様々な理由で学校に行きたくても行けない子供にも、一度少人数の学校生活を体験してみたいと思う。特認校と言う形ではなくても、理由があれば選択して学校に通うことができるシステムを作り、そのロールモデルとして街中から近い場所の日章小学校や大町小学校で試す価値があると思う。生徒の人数や校区も大事だと思うが、子供が社会から孤立することなく、子供全員の居場所を確保でき、みんながきちんと希望する教育を受けることができるように取り組んでいくことも大切である。 単純に学校同士を住んでる地域で校区を区切って統廃合を進めるのではなく、小学校としての今の形に囚われることなく、もっと広い視野を持って、今後の旭川の将来を見据えた上で、有効な方法や対策を熟考していってほしい。	少子化により児童生徒数の減少が進み、市全体で学校の小規模化が進行している現状にあって、将来にわたりより良い教育環境を維持するためには、長期的な展望の元、望ましい学校規模の確保に取り組むことが必要と考えております。 教育委員会では、教育支援センター(ゆっくらす)の運営のほか、学校向け指導資料の作成や、教員研修会を実施するなど、不登校の未然防止や児童生徒の自立支援等の充実に向けた取組を進めております。 また、教育委員会等に個別の相談があった場合には、児童生徒本人と保護者の意向を踏まえながら、個に応じた具体的な支援の推進に努めております。 少人数の学校や不登校、特認校、中心市街地活性化についての御意見は関係課と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。

受付 番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
17	旭川市教育委員会の皆様、日々、市の教育行政にご尽力いただき、感謝申し上げます。少子高齢化、児童・生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進む中で、より良い教育環境を構築していかなければならないのは承知しており、私も願っております。今回の来年改定予定の『旭川市小・中学校適正配置計画(素案)』(以下素案)について、特に日章小学校の統廃合は反対で、その意見を述べさせていただきます。その中で、教育委員会の管轄でない事案もありますが、どうか関係部署と共有していただけるよう、強くお願い申し上げます。 1. 日章小学校(以下日章小)の重要性について 日章小は、明治26年(西暦1893年)9月、旭川(この頃はまだ村)で初めての公立学校として誕生し、今年131周年を迎え、長きにわたり旭川の歴史と共に歩んできました。所在地も旭川の中心街に位置し、その地域発展に、居住者の増加、それに伴い商店などの経済活動も増えて、旭川の発展に大きく貢献してきました。 今現在もその中心街にある日章小、特に場所に大きな意味があります。それは、「小学校が無くなれば、中心街に人が住まなくなる」と、言う事です。この事は、中心街に人が住むことを推進している旭川市にとって、阻止すべきことなのではないでしょうか？ この素案の上位計画である、令和6年5月策定の『第8次旭川市総合計画 推進計画(令和6～9年度)』には、展開施策の1つとして、「中心市街地と商店街の活性化」が明記されており、評価指数の一つとして「中心部の居住人口」があります。その対象区域には、日章小はじめその校区も含まれており、そこにファミリー層が居住すれば、その地域の商店街活性化の一翼を担います。特にファミリー層は、長い期間居住することが見込まれます。イベントなどの一過性、期間限定の賑わいでなく、長く持続する賑わいです。このことについては、主に市地域復興部および経済部の管轄ですが、学校が無くなるとその地域の居住減少し、中心街における市民生活や経済活動、防犯、様々なことに影響が出てきますので、これらの部署と教育委員会学校教育部教育政策課と、密に協議しながら慎重に検討していただけますよう、お願い申し上げます。 2. 校区および放課後児童クラブ未設置について 日章小の校区は、他の小学校校区と比べるとかなり狭く、また公園や商業施設、会社ビルなどの、そもそも人が住まない建物も含まれていることから、児童数確保が難しい。併せて放課後児童クラブ未設置のために、それを求め、日章小校区なのに設置されている近隣の小学校へ通ったり、また通勤族で共働きの世帯にとって通い辛くなり、引っ越し先に日章小校区を選ばず、本来通うはずの児童が流出している状況が長く続いている。 先ずは、校区の見直しと放課後児童クラブの設置を求めます。 3. 教育的価値・効果について。都市型特認校として。 日章小は小規模校で集団生活での学習効果が懸念されるご意見もごさいますが、我が子を通わせてた時、その心配はありませんでした。確かに単学年は少ないですが、その分クラス全体が一丸となり、また縦割り活動により、異学年どうし協力し合いながら、様々なことを学習、経験できたからです。学校全体が家族、兄弟姉妹のようでした。児童、教職員、保護者の三者がより良い繋がりを築けました。 また、他校では受け入れられなかったり、また馴染めなかった児童が、日章小では改善、克服し卒業していった姿も見られました。これこそ、教育の本質的なことではないでしょうか。小規模でなければできない学習効果や教育効果もあります。一律に小規模校だから統廃合となれば、その環境を必要としている子ども達、助かる子ども達も助かりません。 他にも特筆すべきは、日章小の近隣の環境です。緑豊かな常磐公園、その中には美術館、図書館、彫刻の数々。買物公園には様々な商業施設、郵便局、放送局、市役所、警察署、消防署などなど。小学校時にこれらへ校外学習するには、最善の立地です。中心街の地域人材・地域資源を活用した学習効果もかなり高いと思います。これらを踏まえ、新しく都市型の特認校とすれば、新しい教育的価値が見出されることと思います。 4. 少子高齢化にどう対応するか 小学生の子ども達の数が減ってくるのなら、小学校内に幼稚園などを併設したり、シルバー世代向けに開放して、学校教育及び経営管理、用務員や放課後児童クラブの要員などに携わっていただくなど方法があるのではないかと。様々な世代間交流により、既存の方法に捉われない新しい教育効果、地域住民への還元が期待される。 最後に、学校規模の適正化は、あくまでも児童生徒の教育環境の改善をし、より良い学校教育の実現に向けて必要な事は承知している。一方で、特に小学校は地域コミュニティ存続の核として、持続性のある居住・教育・地域交流・避難場所としての防災・地域経済など、様々な機能や影響を与えている。そのことから、日章小の存続は、旭川市にとって大きな意味があるのではないかと。 基準に満たないから統廃合を進める破壊的な考えでなく、小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化するよう、様々なアイデアで前向きに建設的に協議していただけるよう、強く要望いたします。 我々の子ども達や、生まれてくる孫たちに、変わらずにより良くなっている旭川を残したいです。	日章小学校は過小規模校となっているため統廃合対象校としておりますが、統廃合につきましては、保護者や地域の方々の御意見をお聞きしながら、地域事情を考慮し、十分に検討、協議を行ってまいります。 日章小学校の通学区域については、歴史的に形成された生活圏も踏まえ、児童生徒の安全確保や距離に配慮して定めており、地域コミュニティとの整合性を考慮し、小学校卒業後、全児童が同じ中学校に進学できるよう見直しを進めております。 通学区域を分けることは、これまで進めている小中連携や、他校の小規模化を招来することにつながることへの影響を考える必要があり、全市的な人口減少の中、特定の校区に児童生徒を誘導することは難しいと考えております。 中心市街地活性化や児童クラブ、特認校、小規模校についての御意見は関係課と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。

受付 番号	御意見	旭川市教育委員会の考え方
18	旭川市内近郊とも小・中学校約360校の新設・増設を目指す。台場中学校も新設する。児童生徒数1,000人を増やして欲しい。雨紛小・中学校, 富沢小・中学校, 正和小・中学校もそれぞれ新設する。	本市の児童生徒数は将来的にも減少する見込みであり, 市立小・中学校を増やすことは想定しておりません。
19	旭川市内近郊とも小・中学校約360校の新設・増設を目指す。台場中学校も新設する。児童生徒数1,000人を増やして欲しい。正和中学校も新設する。	本市の児童生徒数は将来的にも減少する見込みであり, 市立小・中学校を増やすことは想定しておりません。